

新しい修学旅行を模索して

松戸六実高の歩み

青柳秀克

(1)

不可欠である。

本校の研究は、未だ実践

の緒についたばかり、海のものとも山のものとも言えない状態であるので、この際多くの方々のご教示をお願いしたい一念で、敢えて多分に理想や願望を交えて、今までの経緯を中心まとめてみた。

研究の基礎

現代に生まる生徒、二十一世紀という新しい時代のはじめに、社会活動の中心的な役割を果すであろう生徒の、教育を受持つ我々は、時代性を正しく理解把握した上で、生徒個々が持つ特性、独自性を育成しなければならない。

そのためには、時代や地域、社会に適合した望ましい状態へ高める教育方策はいかにあるべきかを、あらゆる場面で常に検討し、創意工夫をこらし、全校教員の理解と協力の上に、より良い実践を積み重ねることが



徴が生徒ほどのような影響をもたらしているであろうか。またこれによってどのような望ましい現象が、そして望ましくない現象が、起る。

現代についての特徴は、機械化・国際化・情報化・組織化・大衆化といわれる。では、この特徴が生徒ほどどのような影響をもたらすのであるか。また

これによってどのような望ましい現象が、そして望ましくない現象が、起る。

当初、その効果は、集団生活、集団行動、未知の地を訪問、教師と生徒や生徒同士の接触などを通じて、大きいものがあった。しかし、今日では、この効果を認めつつも、問題行動の多発など多くの議論がなされつつある。

ここで時代性に適さなくなつた、教育的意義を失つたとする短絡的判断からの廃止は容易であろう。が、我々は十分な前向きの建設的な検討を経過した上

に至っている。

本校の現状

本校の現状は、教職員の日常の努力と生徒の素直な対応といふが、それが何よりも大切である。

その後日的な面と、地域性や中

の努力と生徒の素直な対応といふが、これが何よりも大切である。

その後日的な面と、地域性や中

の努力と生徒の素直な対応といふが、これが何よりも大切である。